



立秋以降も真夏日の記録更新が続きましたが、ようやく「行楽の秋」らしい季節になってきました。世界各地で紛争やテロが絶えませんが、コロナ後の海外旅行の人の動きも徐々に回復してきました。今回はもう少し気楽に旅行できる環境だった四半世紀前、11月にレンタカーでのスペインドライブの写真を拾ってみました。フィルムカメラ時代で写真は全てアルバムのプリントをスキャンしたものです。20年勤続で2週間の休みが取れ、水・日が元々の休日でしたので、火曜日の夜成田に向かい2週間後の水曜日に帰国、往復の飛行機を取ってコースは大まかに計画、宿は全て現地調達という旅の中の3日間でした。私は2度目のスペインでしたが、この時は1年間ラジオ講座でスペイン語を勉強した妻との二人旅で、現地の方やスペイン語圏からの旅行者等との会話もでき、以前より随分旅の楽しみを広げることができました。

取り難いと言われていたレンタカーは日本で予約しておきました。トレドの東郊外、鉄道のトレド駅横で「ブジョー306」を借りました。二人とも初めての国際免許と左ハンドル運転で、方向指示器とワイパーの間違い等、やりそうなことは一通り経験しました。ナビも無い時代、旅行ガイドブックのスペイン全国地図と各都市中心部の市街地地図のみでのドライブでした。日本からフロントガラス内面に吸盤で付ける補助バックミラーを持参し、助手席からも後方確認できるようにしましたが、車の返却時に寄贈（回収し忘れ）してきました。上の写真は、ラマンチャ地方コンスエグラの風車群です。



最初に立ち寄ったトレドのミラドル デル バイエ（谷の展望台） タホ川越しに市街地を南から眺望 '97.11.8

コンスエグラまでは60km程ですが、道を間違えてスール自動車道経由で40km遠回りしてしまいました。小さな街の南にある風車群を見に行きましたが、一連の丘陵にコンスエグラ城（Castillo de Consuegra）もありました。どちらも他に観光客は無く貸切状態でした。中に入れる風車もあり、土産物店になっているところもありました。写真を撮るのに立っているのもふらつく程の風車に打って付けの強風が吹いていた丘の上からは、360°乾燥地帯の大平原が望めました。



プジョー306



コンスエグラ城



観光客は2人だけ

ハエン（Jaén）経由でグラナダに向かいました。途中、人家がほとんどなく見渡す限りのオリーブ畑もあり、余程の働き者がいないと維持できないなと思いました。グラナダでは、ガイドブック「地球の歩き方」で見つけた宿を直前に電話予約していましたが、地図を見て何とか宿に近付こうとしても道路規制されていて街中をぐるぐる。結局広場地下の有料駐車場に停めましたが、運良く宿が提携していたパーキングで割引扱いがありました。グラナダにはアルハンブラのライトアップがある土曜日を狙って到着、夕食後夜のアルハンブラ散策を楽しみました。ウエディングドレス姿を撮影している集団もありました。もちろん翌日昼間にもう一度行きましたが、さすがにここでは日本人ツアー団体とも遭遇しました。



アルハンブラにて



カルロス5世記念館 日本人ツアーも



ライオンのパティオ



鍾乳石飾りの天井



二姉妹の間



バルタル宮殿



天人花のパティオ



アルハンブラよりアルバイシフ・サクロモンテの丘



補助バックミラー

見事な青空も



グアディクス

洞窟住居の屋上

グラナダから東へ向かうと天気が目まぐるしく変わりましたが、マドリッド王宮の天井画のような青々とした青空も望むことができました。シエラネバタ山脈の北麓にあるグアディクスという洞窟住居の街へ行きました。煙突のような換気塔がよきよきと立っていて、歩いている地面の下は何方かの家ということになります。土産物店の方に自宅内も見せて頂きました。掘って家を広げたようで天井はアーチ状に削ってありました。一年中室内温度は20℃程度とのことでした。

スペインにも温泉が幾つもあるということで、その一つに宿泊しました。シエラアラミージャ (Sierra Alhambilla) というところで、住所を頼りにペチーナという狭い道が迷路のような小さな町に着きましたが、そこから 10km 程、マカロニウエスタンの撮影地かと思われる荒野を走った山の中腹にありました。一軒宿で、部屋からは地中海のアルメリアまで見下ろすような絶景、建物で囲まれたパティオとホテルの周辺のみ緑も見られましたが、少し離れると乾燥荒野。プールのように大きなアラブ式の温泉 (源泉 58℃) に貸切で入れました。温泉を活用して色々な療養施術を行う施設もありました。



マカロニウエスタン撮影地のような荒野



アラブ式大浴場



ホテルのレストランも客は 2 人のみ

アホスープが美味しかった



ホテルの部屋からアルメリア方面を望む

3 日目、アルメニアからマラガの途中、地中海を望むカラオンダ展望台 (Mirador de Calahonda) に寄りました。この写真と、ここのグーグルストリートビューや 360°写真と比べると、遠景街並みの四半世紀の変化を確認できます。この辺りには、当時は無かった地中海ハイウェイも整備されているようです。車を走らせていると、遠くの山に白い紙屑が捨てられているように見えるものがありました。近づくにつれそれがひと山を覆った白い街並みだと分かります。「白い村」としてはマラガの少し南西のミハス (Mijas) が有名ですが、このルートにも幾つかありました。そのひとつサロブレニャ (Salobreña) では、車中から「白い村」と頂上にサロブレニャ城が見えました。



カラオンダ展望台



サロブレニャ城

アルメリア自動車道

コスタデルソルのネルハの洞窟 (Cueva de Nerja) に立ち寄りました。ネルハはイスラム時代の「豊かな泉」との意で、洞窟は 1959 年に発見されたとのこと。2 万年前のクロマニオン人住居跡でもあり、高さ 60m の滝がある地下空間の舞台では国際舞踏音楽祭も開かれるとのこと。アルハンブラの鍾乳石飾り天井もこのような鍾乳洞が参考になったのだらうと思えるところもありました。



ネルハの洞窟



鍾乳石飾り天井の原型?

マラガで給油をして車を返却。3 日間で 800km 程走り、結構燃費が良かったと記憶しています。マラガは大きな街で左折禁止が多く、日本と感覚が異なりこの方向と分かっていてもなかなか思った所に行けず、レンタカー店に辿り着くのに苦労してしまいました。当初の粗い計画では、この

後はマラガ泊で翌日は断崖の上の街ロンダへとしていましたが予定を変更。長距離路線バスで 140km 程、アルヘシラス (すぐ近くが英領ジブラルタル) に夜の 9 時半に着き、それから確保したホテルでツアーを予約。翌日はスペイン南端のタリファから海峡 (最も狭い部分は 14km) を渡ってモロッコ観光もできました。 (写真撮影 1997.11.08~10)

< Google マップ参照 > URL は、下の「PDFはこちら」に入り、アンダーラインをクリックしてください。

トレド	https://www.google.com/maps/@39.8586316,-4.0252245,15z
コンスエグラ	https://www.google.com/maps/@39.4520493,-3.608351,15z
グラナダ	https://www.google.com/maps/@37.1762808,-3.5881647,17z
グアディクス	https://www.google.com/maps/@37.2947049,-3.1420671,18z
シエラ アラミージャ	https://www.google.com/maps/@36.9608358,-2.3970981,19z
カラオンダ展望台	https://www.google.com/maps/@36.7025416,-3.4112593,16z
サロブレーニャ	https://www.google.com/maps/@36.745128,-3.5804235,15z
ネルハの洞窟	https://www.google.com/maps/@36.7620345,-3.8449287,20z
マラガ	https://www.google.com/maps/@36.7217029,-4.4206775,15z
アルヘシラス	https://www.google.com/maps/@36.1433843,-5.4432644,13z

(2023.11.01)